

今月のテーマ

快適な睡眠のために
不眠症対策

秋の夜長を皆様は、いかがお過ごしでしょうか。読書、パソコン、映画、グルメや宴会と何をするにも良い季節となっていました。しかし、熱中しすぎて、ついつい夜更かしをしてしまい、翌朝、起きるのがつらい!なんてことはないでしょうか。

翌朝スッキリと目覚めるための方法を考えてみましょう。

不眠の症状 ~主に4つのタイプにわけることができます~

入眠困難	寝付きが悪い	
中途覚醒	夜中に何度も目が覚める	
早朝覚醒	朝早くに目が覚めて、その後眠れない	
熟眠困難	夢などを見て、起床時に疲れがとれていない	

不眠が続くと「仕事中に眠くなる」、「すぐに疲れる」、「集中力に欠ける」、「考えがまとまらない」、「計算力が落ちる」などがおこりやすくなります。その結果、事故をおこしたり、ミスを連発したりと、生活に支障が出てくることがあります。まず、**不眠を改善するための8項目に注意してみましょう!**

1 定期的な運動	昼間に適度な有酸素運動を行いましょう。
2 寝室環境	快適な室内環境を整えましょう。 (明るすぎず、うるさすぎず、暑すぎず、寒すぎない)
3 規則正しい食生活	なるべく3食きちんと食事をとりましょう。(更に空腹すぎず、食べすぎに注意しましょう)
4 就寝前の水分摂取	就寝前は夜中のトイレが増えない程度にしましょう。 (脳梗塞や狭心症などの治療中の方は、医師の指示に従ってください)
5 就寝前のカフェイン (コーヒー、紅茶、日本茶等)	少なくとも就寝前の4時間は摂らないようにしましょう。
6 就寝前のお酒	過度のアルコールは避けましょう。寝酒はやめましょう。 (就寝前のアルコールは、一時的に寝つきがよくなりますが、徐々に効果が弱まり、夜中に目が覚め、深い眠りをさまたげてしまいます)
7 就寝前の喫煙	睡眠前の喫煙は避けましょう。(ニコチンには精神刺激作用があります)
8 寝床での考え方	寝床での考え方をやめましょう。翌日起きてから考えましょう。 (心配した状態では寝付きが悪く、寝付けても眠りが浅くなります)

それでも

「最近よく眠れないな」と感じたら、早めに医療機関を受診して適切なアドバイスを受けてください。

不眠症と診断された方や、夜勤が多いなど睡眠リズムが不規則な方は、**薬物治療が必要**になることがあります。

ただ、睡眠薬については、様々な**不安**を感じている方もおられるかと思います。

服用量がだんだんと
増えているのでは…

翌日に眠気が残るのでは…

依存性があつて、
やめられなくなるのでは…

……

そこで



睡眠薬を安心して服用してもらうための 薬剤師からの5つのアドバイスです

①アルコールと同時の服用は避けましょう！

ふらつき、物忘れ、おかしな行動をしてしまうなどの副作用が生じることがあります。また、寝酒は不眠症を悪化させます。



②寝る準備をしてから、服用しましょう！

服用後10分～30分で、効果があらわれますので、服用後は床に入りましょう。

③服用した翌朝に眠気が残る場合は、医師と相談しましょう！

『持ち越し効果』と呼ばれるものです。効きすぎていることがありますので用量の減量や薬剤の変更などを相談してください。

④自己判断での增量・追加や数種類の睡眠薬を同時に服用することは避けましょう！

夜間の転倒骨折、一時的な認知機能の低下、持ち越し効果、依存性の形成を引き起こす可能性があります。必ず、医師と相談してください。

⑤自己判断での休薬は避けましょう！

突然の休薬は不眠症を悪化させる可能性があります。必ず、医師と相談の上、薬剤の変更や服用方法の変更を検討してください。

快食・快眠・快便が健康の基本です。

健康を維持し、「スポーツの秋」、「芸術の秋」、「味覚の秋」、「読書の秋」など様々な趣味を楽しんでください。

**お薬や介護についてわからないことや、気がかりなことがありましたら、
お気軽にお尋ねください。**

担当 みやこ薬局 大宮店

*** みやこ薬局 ***

本店・山科店・薬大前店・マツヤスーパー店・北山店・紫竹店
大宮店・みやこケアプランセンター(北山店横)

<http://www.miyako-ph.co.jp>